

[コンセプトおよびマスタープラン]

コンセプト

Futurability

待ち遠しくなる未来へ。

将来構想

●インテリジェントメディカルコミュニティを通じて、地域を支える

●垣根を越えた横断化医療、徹底した個別化・専門化医療のもと、世界をリードする高度医療を推進する

●Physician Scientist、Medical Innovatorを育成し、未来医療の発展・国際化に貢献する

●アカデミアの結集と産学連携により、橋渡し研究、臨床研究の世界的拠点となる

●倫理・安全・ITが全てを支える

担うべき役割

●医療人育成 ●臨床研究中核病院 ●がんゲノム医療 ●高度急性期 ●臓器移植 ●地域がん拠点病院

●地域災害拠点病院 ●高度救命救急センター ●総合周産期母子医療センター

マスタープラン

①患者を中心に考えた安心、安全な建物計画、配置計画、動線計画

②手術室の機能強化を核とし、関連部門の最適な配置・動線計画

③教育・研究・診療拠点機能(学生教育・臨床研修病院、臨床研究中核、がん拠点、がんゲノム、臓器移植、災害拠点、総合周産期)の機能強化

④センター化(垣根を越えた横断化医療、徹底した個別化・専門化医療)に適した配置計画

⑤安定的な経営基盤の構築



▲2021年 工事現場航空写真



▲2023年6月 B2階 リニアック躯体施工状況



▲2024年3月 工事用タワークレーンクライミング風景



▲2024年4月 6階 スラブコンクリート打設完了



▲2024年8月 B1階 MRI壁工事



▲2024年 工事現場航空写真



▲2025年 統合診療棟正面



▲1階 外来ホール



▲3階 光庭



▲4階 家族待合

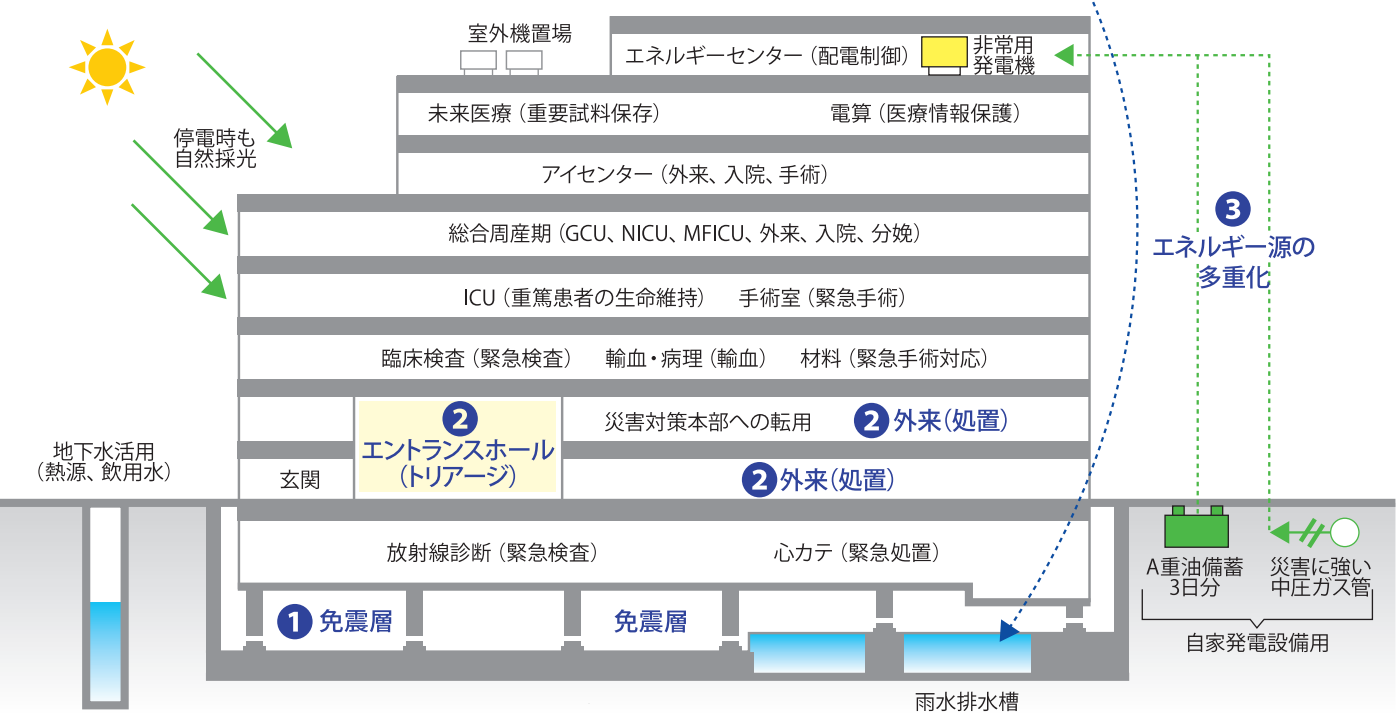


▲5階 LDR室(陣痛・分娩・回復室)



▲6階 アイセーター手術室

[統合診療棟の機能(災害対策関連)]



① 免震構造の採用

免震構造により地震時の揺れを低減し、揺れによる建物被害の発生を抑制することで、診療機能・臨床研究機能などの病院機能を維持・継続します。



② トリアージ・処置スペースの確保

災害時の傷病者の受入で必要となるトリアージスペース、処置スペース、また、それらを俯瞰できる位置に災害対策本部を設置するなど、災害時に必要となるスペースをBCP(事業継続計画)に基づき設定しています。



③ 供給エネルギー源の多重化

災害時に商用電力が供給停止された場合、非常用発電機にて配電を継続しますが、既存の都市ガス(中圧ガス)をエネルギー源とする発電機に加え、備蓄燃料(A重油)をエネルギー源とする発電機を新たに2基採用することで、停電リスクに対応します。

